多須神の六字は本社の分注なるべしと說へる恐くは是なるに似たり其は土佐日記袖中抄などに書れたる女のみならず當國神名帳に從三位上由良姫大明神ありて別に從四位上和太酒明神とあれば由良比女神の分注は加筆なるべし但し當國神名帳に從三位上海原明神從四位上云海彦明神などは見えたりこれら海神社の事にあらざるか尙實地に就て考證せまほし

祭日 六月廿日より廿一日迄

社格 村社

所在 別府村(知夫郡黑木村大字別府)

今按神名帳考證信友の書入に視聽合記に知夫郡多澤村より棹し出れば左にもとの名は渡島あり長さ六町廿間横三町許其西ノ崎に渡明神と號する社ありと記せりと云ひてこの海神を知多須神ならんとの考證に引けり今國圖を閲するに別府は知夫本郡にある村にして多澤村は知夫の屬島知夫村の內なり明細帳に本社所在を別府村本地と揭載するを按へば此視聽合記の說と恐くは違へる所あるに似たり尙實地に就て考へ訂さまほしき事なり

比奈麻治比賣命神社

祭神 比奈麻治比賣命

神位 仁明天皇承和五年十月甲午奉授隱岐國無位比奈麻治比賣神從五位下淸和天皇貞觀十三年閏八月廿九日壬申授隱岐國從五位上比奈麻治比賣神正五位下陽成天皇元慶二年五月十七日壬子授隱岐國正五位下比奈麻治比賣命神正五位上

今按當國社名帳には從一位比奈麻治姫大明神とあり

祭日 六月廿八日九月十九日

社格 村社

所在 宇賀村(知夫郡黑木村大字宇賀)

今按明細帳に此神は神火を顯して海上漂流の難を救給ひし事國史に見在せる由神體女神一坐極古し外に奇石一つ昔海中より上り給へりと申傳ふ云々と見え和漢三才圖會にも雜火權現在二海部郡島前一祭神比奈麻治比賣神云々とあるは類聚國史十に延曆十八年五月丙辰遣勸海使外從五位下內藏宿禰賀茂麻呂等言歸レ鄕之日海中夜暗東西擊曳不レ識レ所レ著于レ時遠有二火光一尋二逐其光一忽到二島濱一訪レ之是隱岐國知夫郡其處無レ有二人居一或云比奈麻治比賣神常有二靈驗一商賈之輩漂二宕スレ海中一必揚二火光一賴レ之得レ全者不可勝數神之祐助良可二嘉報一伏望奉レ預二幣例一許レ之と見えたるによく符合へり然るに視聽合記に大山神社に係けていへる如く聞ゆれどこは別社ならんと思ゆる由は明細帳に別に美田村山上と云所に燒火社但式外と揭載して祭神不詳美田村の內波止の里より十八丁許嶮路を上りて山上に在り兩島に比倫なき景地なり此社海上の危難を救ひ給ふ神德ありとて古より今に至るまで諸人崇敬する社なり就中　後鳥羽上皇御遷幸之時海上にて靈驗有し

に付深く御敬信有し邈委曲社記に有之但鎭祭年紀不詳とあると合記に記載せる燒火山緣起と云ものゝ文にて發明せらるゝなりされば近來唱ふる燒火社は美田村この比奈麻治比賣命神社は宇賀村と云に目を著べしなほ明亮なる事は實地に就きて辨別すべきなり

眞氣命神社

祭神 眞氣命

今按本國神名帳に從三位眞氣明神とあり

祭日 六月十五日九月十九日

社格 村社

所在 宇賀村(知夫郡黑木村大字宇賀)

天佐志比古命神社

祭神 天佐志比古命

神位 仁明天皇承和五年二月己酉奉授隱岐國天佐自比古命從五位下

今按國內神名帳に從一位天佐自彥大明神とあり

祭日 六月八月十五日

社格 村社

所在 知夫村(知夫郡知夫村大字知夫)

今按明細帳に用明天皇御時新府里の南海中の島に在り此を神島と云白雉二年まで年數六十八年也同八月十五日新府里高津久へ上り給ひ爰にある事萬治二年まで千七年同年六月十五日今の地に御鎭座と社記に云々地名天神原俗一宮大明神と稱すと記載せり姑く揭げて後案を俟

○海部郡 大一座 小一座 今稱海上郡

奈伎良比賣命神社

祭神 奈岐良比賣命

祭日 六月十一日十月十日十月初卯日毎月朔日

社格 村社

所在 豐田村(海士郡海士村大字豐田)

今按視聽合記に周吉郡西鄕目貫町古名根技の西の山腹に本社ありと見えて按神明帳奈伎良比賣命神社在海部郡然則此神祠可在海部郡今郡中無在也既而有之豐郡名之誤歟後世或邊干玆歟抑又別神とあり本國神名帳には海部郡從一位奈伎良姫大明神と記載す神名帳考證書入に信友按に周吉郡は島後也海部郡は島前にて島異なり周吉郡なるは海部郡なるを更に祀りたるものにて式なる社にはあるべからず但故ありて遷座あるましきにもあらずなどあるを明細帳には其鎭座年號不相分として本村と記載せり姑く帳に隨ひて揭ぐなほ實地をよく探索せまほしき事なり

宇受加命神社 名神大

祭神 宇受加命